

姫路大会に参加して

——第七回全国国公立幼稚園教育研究協議会——

山村 きよ

記録やぶりの暑さの中で一、七〇〇名もの参加者が集って研究協議などできるかどうか？ と心配しながら、しかも暑さに弱い私は半ばお役目とがまんして……姫路市に足をふみ入れたのは八月六日夜だった。

覚悟がよかったためか、会場の設営がよかったのか飾磨小学校講堂で開かれた開会式につづいて京大教授齋坂二夫氏の熱演まで吸いこまれるように暑さを忘れてきき入った。「おさなご——その理解と教育」と題された講演は氏の小さい時からの想い出、経験をバックに興味深くこどもの心理を理論づけて下さった。あのボリウムのある音声は今だに耳の底に残っている。午後の班別研究もリクレーションのたくましい男性グループによる大塩の獅子舞いに気

持を誘われて意気揚々と十二会場へ参加してゆかれた会員の後姿を見送りながら私も、第七分科会場に足を運んだ。

それにしても地元園長会役員のお骨折りには頭が下がった。一、三〇〇人しか入れぬという講堂のまわり数教室には地元の若い先生方が分解して席をとりマイクを通しての勉強であったり、会員の熱気を吸いとりうとしてあちこちに立てられた大きな「氷柱」など、どこにもまごころこめた設営がなされていた。

都会の完全冷房になれている私には氷柱の原始的なことに驚くよりもあの氷柱が「長時間とけないでいる」ことの方がいさか驚きでもあった。

第二日目のリクレーション、辻久子さん

のヴァイオリン独奏は一、七〇〇名の会員の扇子もつ手を宙にうかせてうっとり幻想の世界に誘った。ステージの前までギッシリとつまった会場は水をうったように静かで、なまのヴァイオリンの音は辻さんの腕からすべり落ちるように流れ、会員の心をしっとりときせていた。都会のすばらしい会場でもこんなふんいきにはならないふしぎさを感じながら、おかげで久々に命の洗濯ができた。

参加した会員の年齢層も近年になくまちまちでもおもしろかった。ことに兼任園長先生方のお顔も多く見られ、各層にわたったこの盛会さは、休暇中、しかも公立幼稚園の多い西日本で開かれたことが原因しているように思う。

各分科会のテーマは？

最近幼稚園の研究会にはとかく領域別の個々に分けられたものが多く、六領域の一つ一つは非常に深くほりさげて研究されるようにも考えられるが、幼稚園生活にびつたりしないような感がなきにしもあらず……と考えていたとき、今回は十二の分科会にそれぞれ幼稚園教育の実際問題をとりまぜて、しかも昨年からゆき届いた準

備がされていたように思う。

1 幼稚園児の健康安全管理について。

2 テレビ、ラジオは幼児の発達にどう影響しているか。

3 幼稚園は何年間保育すべきか。

4 小学校との連関はどうあるべきか。

5 パーソナリティーを形成するものとしての造型活動。

6 地域社会を背景とした幼児の道徳性の啓培について。

7 自由遊びの再検討。

8 集団生活を乱す幼児をどのように取り扱うか。

9 幼児の成長のために効果的な遊具について。

10 幼稚園における自然のとり扱いについて。

11 言語指導はどうあるべきか。

12 音楽リズムの指導方法について。

以上のようなたくさんの方科にひとりのものがあれこれと口出しすることはできないので、東京でも参加した八十余名の会員がそれぞれの興味によって参加し、二、三の報告をうけて非常に用意周到だった会のもち方にも感心させられた。二人の提案

者はながながと研究発表をされるのではなく、三分五分位で口火をきるように用意され、それぞれに指導助言もあつたようだが、自然に関した分科会では「私はあまり幼稚園には関係ないけれど……」と前おききされてすばらしい助言をして下さったと喜んで私に報告してきた会員もあつて、とかく私共はその道の位になられた先生方をたよりにしすぎて片よつた考え方になるきらいがないでもない、ひとり反省してみ

た。
私も二日間を通して「自由遊びの再検討」というテーマに魅力を感じて参加した。会員は約三〇〇名位、とても全部の人達で協議などできるものではなく限られた人達の発言によって終つたことを残念に思うが、

いつの研究会でも「自由遊び」の問題には多くの人が集ることを不思議に思う。それだけに現場ではなやんでいることが多いかもしれないがいろいろな討議されている内容を考えた時、それぞれの園の園長と先生方がこうしたことについても「根本的な問題で話し合いが充分なされていない」ということをつくづく考えさせられた。たとえば会員から出される問題がとかく自由遊

びの指導技術に関する小さな問題と自由遊びの根本的な理念とが「きくそうして」ゆき、つもどりついでいて、みんなが求めているような明日からの保育に役立つような具体的な解決案はでてこなかった。ことに六領域を小学校の八教科と同じように考えている園長先生から常に問題視されているだろうと思う自由遊びになやんでおられる若い先生方の、困っているようすが手にとるようになつてわかれたことは「自由遊びは何時間位が適当か、自由遊びを多くさせると駄がでにくい」など……で、いつになつたらほんとうの幼稚園教育を小学校の先生方に……とくに校長先生に理解してもらえらるだろうか？ とんだ横道に考えをはずしてはおかしくもあつた。

しかしそれぞれの会員の中には自由遊びの根本的な考え方を一応次のようにまとめ、明日からの保育には自分達で、目の前におかれた環境、園児数など実態の上に立つて、できるだけ活潑な自由遊びの行なわれるような「ふんいきをつくろう」と意気込んで散会していったように思う。

○こどもの生活はあそびである。
○こどものあそびは放任されるべきでな

(倉橋文庫御報告)

さきに、倉橋惣三氏の幼稚園界における業績を記念して、お茶の水女子大学図書館内に倉橋文庫寄贈の企画をいたしました。幸い多数の方の御賛同を得て、寄贈を完了し、その会計報告を本誌五十七卷三号に掲載いたしました。その後、本学図書館の御協力を得て、図書の購入、諸手続きを完了し、閲覧を開始いたしております。図書内容は、1、幼児教育原理 2、幼児教育史 3、幼児心理 4、保育内容、カリキュラム 5、童話 6、幼年時代の追憶文學 7、母性教育、家庭教育などの和洋書をふくんでいます。末ながく、倉橋文庫として、後輩の勉学の資とされますことは大きな喜びであり、ここに重ねて、皆様の御協力を厚く感謝申し上げます。

なお、学外の方で閲覧御希望の方は、附属幼稚園を通して、図書館にその旨をお申し出で下されば、閲覧なさることができま。

昭和三十五年十月

倉橋文庫寄贈実行委員

なお、以前御報告後に寄贈された書物は左記の通りでございます。追加御報告申し上げます。

- 一、倉橋惣三著 日本幼稚園史二冊、幼稚園真諦五冊、子供讃歌五冊、キングダーブック合本(昭和廿八年、廿九年、卅年)三冊、幼児の教育合本第五十卷一冊、以上、フレール館寄贈
- 一、倉橋教授御講述 幼児教育原論一贈写プリント(昭和六年)大塚喜一氏寄贈
- 一、長寛子刀自しのび草、及び、木の花幼稚園沿革略史、木の花幼稚園田村きわ氏寄贈
- 一、幼児の教育内容とその指導(二冊)、幼稚園お話集(上・中・下)、幼児の教育指導の形態、系統的保育案の実際(二冊)、以上八冊、日本幼稚園協会寄贈
- 一、津守真・久保いと・本田和子共著 幼稚園の歴史(恒星社厚生閣版)著者寄贈

い。

○自由遊びが発展してこども達の生活領域をひろげるように教育計画をたてるべきである。

○自由遊びは六領域と同じではない。など最後に記し度いことは最近の研究発表が殆んど現場の実践研究によるつみ重ねで、その体験発表が多く、しかも若い先生方が自信にみちて堂々と発表されることに敬意を表したい。今回も次のような題目のもとに貴重な資料を示されて、興味深く暮さを忘れてきた。

- 1 我が国に於ける自然保育の実際 発表者 佐賀県唐津市立唐津幼稚園教諭
- 2 劇あそびをとおしてねらう言語指導について 岐阜市立加納幼稚園教諭
- 3 自由遊びと集団指導について 東京都新宿区立牛込幼稚園教諭
- 4 幼児のたのしい楽器あそびについて 下関市立第一下関幼稚園教諭
- 5 心情に培う幼児教育の一端 姫路市立英賀保幼稚園長

(東京都公立幼稚園教育研究会会長)